

2016 年度（対象年度：2015） 自己点検・評価シート 【大学全体の視点】

|     |         |
|-----|---------|
| 基準3 | 教員・教員組織 |
|-----|---------|

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

| 項目<br>No. | 評価項目                                           | 点検項目                                                                                                       | 自己評価 |    |
|-----------|------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|----|
|           |                                                |                                                                                                            | 個別   | 総合 |
| 301       | 【大学全体の視点】<br>求める教員像及び教員組織の編制方針は設定されていますか。      | 【大学全体の視点】<br>①教員に求める能力・資質等は明確ですか。<br>○教員に求める能力・資質等の明確化                                                     | B    | A  |
|           |                                                | 【大学全体の視点】<br>②教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。<br>○方針等に基づく組織編制の明確化                                              | A    |    |
|           |                                                | 【大学全体の視点】<br>③教員の組織的な連携体制を築いていますか。                                                                         | A    |    |
| 302       | 【大学全体の視点】<br>学部・研究科等のカリキュラムに相応しい教員組織を整備していますか。 | 【大学全体の視点】<br>④授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みを整備していますか。【※どのように】                                                      | A    | A  |
| 303       | 【大学全体の視点】<br>教員の募集・採用・昇格等は適切に行われていますか。         | 【大学全体の視点】<br>⑤教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用がなされていますか。<br>○教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化<br>○規程等に従った適切な教員人事の実施状況 | B    | B  |

2. 現状説明 《記述形式》

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。<br>点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。                                                                                                                                                                                             |
| 301①本学が求める教員像を「就業規則」に定めている。また、教育職員選考に関わる全学的な基準を「教育職員選考基準」として定めており、各学部は、この基準に基づいた人事規程を定め、その中で採用及び昇任の基準を明示している。また、これまで教員の採用募集段階において、本学の教育活動においては建学の精神を尊重するということが周知できていなかったため、学部長会で審議し、募集告知文にその内容を明記することを申し合わせ、「教育職員の採用募集に関する申合せ」として定めた。求める教員像の明確化については、未だ議論を開始していないが、現状を踏まえ、学部長会等の機関で定める方向で議論を開始する。 |
| 301②各学部の教育理念・目的の実現のために教育課程にそって教員組織を編成しており、大学設置基準の必要教員数を満たす人数をもって構成している。教員採用にあたっては、「主たる担当科目」のカリキュラム上の必要性や、教員がどのような役割を果たすのかを明確にした上で、これに適した教育・研究業績の有無を審査して採用を行っている。                                                                                                                                  |

301③専攻科目、教養教育科目いずれの担当教員も各学部にも所属し、教授会の構成員となることで、学部全体の組織的な連携体制を築いており、学部長のもとに、教務、研究、学生生活、キャリアの4部門に主任を配置して学部執行部を構成し、役割分担、責任の所在を明確にしている。教養教育会議、教務会議等を通じて、組織的な連携体制を構築している。

302④教員採用にあたり、専攻科目担当の教員採用は各学部教授会に、学部共通コースの教員採用は当該のコース運営委員会に、教養教育科目担当の教員採用は教養教育会議に対して学長が意見を求め、その結果に基づいて授業科目と担当教員の適合性及び所属学部を学部長会で審議し、判断する仕組みを整備している。

303⑤教員の募集・採用・昇任は、「教育職員選考基準」及び各学部が定める教員人事規程に基づき行っている。採用手続きの適切性については、学部長会が合意プロセスの中でその都度点検している。昇任については、「教育職員選考基準」第10条に基づき、同規程第4条の昇任の基準に該当する者について、各学部教授会で発議し、同規程第2項に基づき、『龍大月報』によって全学の専任教員に推薦依頼を公示している。しかし、教員の業績評価については、「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際学部を除けば、評価する目安が設けられていない。このことについては、各学部等の教員人事の現状や問題点の確認を行った上で、「教員人事に関わる選考基準の目安」の明文化及び教員組織の編成方針の明確化について検討を開始することが2014年度の教務会議で確認されている。

〔改善すべき点の確認〕前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

（自ら「改善すべき点」と掲げた事項）

・求める教員像の明確化については、未だ議論を開始していない。現状を踏まえ、学部長会等の機関で定める方向で議論を開始する。

（評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項）

基準協会からの助言や自己点検において努力課題となった「教員人事に関わる選考基準の目安」の明文化及び教員組織の編成方針の明確化については、改善報告書により検討を開始することが2014年度の教務会議で確認されている。改善報告書で示されている方向性をもとに引き続き検討ください。【努力課題】

### 3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。

本学の教育活動においては建学の精神を尊重するということが、これまで教員の採用募集段階で周知できていなかったため、学部長会で審議し、募集告知文にその内容を明記することを申し合わせ、「教育職員の採用募集に関する申し合わせ」として定めた。

### 4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。

- ・求める教員像の明確化については、未だ議論を開始していないが、現状を踏まえ、学部長会等の機関で定める方向で議論を開始する必要がある。
- ・2014年度の教務会議で確認されたとおり、「教員人事に関わる選考基準の目安」の明文化及び教員組織の編成方針の明確化について検討を開始する必要がある。
- ・「教員人事に関わる選考基準の目安」の明文化及び「求める教員像及び教員組織の編成方針」の明確化については、学部長会で検討する。（2015年度第25回学部長会（2015年11月26日開催）確認）

## 5. 根拠資料 《リスト形式》

| 項目 No.      | 根拠資料の名称          |
|-------------|------------------|
| 301         | 学校法人龍谷大学就業規則     |
| 301・302・303 | 教育職員選考基準         |
| 301・302・303 | 教育職員の採用募集に関する申合せ |
| 301         | 教学運営規程           |
| 301         | 教育課程運営委員会規程      |
| 302・303     | 補充人事フローチャート      |

## II. 評価結果

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |        |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 総評                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |        |
| <p>教員の採用募集段階において、建学の精神を尊重する旨を募集告知文に明記することを申し合わせ、「教育職員の採用募集に関する申合せ」として定めた点は評価できる。</p> <p>しかし、基準協会からの助言や自己点検において努力課題となった「教員人事に関わる選考基準の目安」の明文化及び「求める教員像及び教員組織の編成方針」の明確化については、検討を開始することが2014年度の教務会議で確認され、その後、2015年度に学部長会で検討されることが確認される段階にとどまっているので、速やかに検討を開始する必要がある。</p> <p>「求める教員像及び教員組織の編成方針」が定まらなければ、「教員人事に関わる選考基準の目安」も検討できないと思われるので、まずは「求める教員像及び教員組織の編成方針」の策定を急いでいただきたい。</p> |        |
| 伸長すべき点（長所）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | 《箇条書き》 |
| 改善すべき点 《箇条書き》 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |        |
| <p>「教員人事に関わる選考基準の目安」の明文化及び「求める教員像及び教員組織の編成方針」の明確化については、検討を開始することが2014年度の教務会議で確認され、その後、2015年度に学部長会で検討されることが確認される段階にとどまっているので、速やかに検討を開始する必要がある。「求める教員像及び教員組織の編成方針」が定まらなければ、「教員人事に関わる選考基準の目安」も検討できないと思われるので、まずは「求める教員像及び教員組織の編成方針」の策定を急いでいただきたい。【努力課題】</p>                                                                                                                      |        |
| ※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |        |

## III. 大学基準協会からの助言について

|                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 助言内容                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>【認証評価結果 課題】</p> <p>1) 各学部・研究科の教員組織の編成方針については、明文化されていないことから、明文化のうえ、教職員間で共有することが望まれる。</p> <p>2) 「教員人事に関わる選考基準の目安」を明文化している国際文化学部を除けば、教員人事に際して教員の各種業績を評価する目安が設けられていないことから、教員人事のより一層の透明化を図るため、今後の検討が望まれる。また、教員採用に際して公募を行うか否については多少不明瞭な部分が認められる。</p> |

2016 年度（対象年度：2015） 自己点検・評価シート 【大学全体の視点】

|     |         |
|-----|---------|
| 基準3 | 教員・教員組織 |
|-----|---------|

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評定形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

| 項目<br>No. | 評価項目                                   | 点検項目                                                                                  | 自己評価 |    |
|-----------|----------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|------|----|
|           |                                        |                                                                                       | 個別   | 総合 |
| 304       | 【大学全体の視点】<br>教員の資質の向上を図るための方策を講じていますか。 | 【大学全体の視点】<br>①教員の資質の向上を図るための研修方策を効果的に実施し、資質向上に活かされていますか。【※どのように】<br>○組織的な研修等の実施状況と有効性 | A    | A  |

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

本学における教員の資質の向上に関する方策として、以下のような各研修が挙げられる。

【新任教員向けの研修】

本学に関する全学的理解や教育理念、教育研究活動支援サービス利用方法等を理解し、着任後速やかに教育・研究等の活動が行えるよう、人事課主催で建学の精神やハラスメントに関する研修を行うとともに、学修支援・教育開発センター主催で、5 長（教学担当副学長）や社会貢献活動（REC）、研究活動（研究部）、FD 活動に関する研修を毎年行っている。2015 年度は 4 月 1 日、2 日に行い、参加率は約 95%となっている。事後アンケートでは、各種取組への理解が深まったと意見を頂いている。

なお、学修支援・教育開発センターでは、着任してからの日頃の悩み等を解決・共有するためのフォローアップ研修を行っている。2015 年度は第 2 回 FD サロンと兼ねて開催をしており、本学のライティング支援の状況について情報共有を行った。

【全学的な教員向けの研修】

建学の精神の具現化と人権尊重の理解促進を目的に、宗教部において「戦後 70 年 “軍都” 深草の軍関連遺構を歩く（参加者数：16 名）」や、「教職員のための宗教部特別講座～東福寺で坐禅体験！～（参加者数：33 名）」「生きづらさを抱える若者とキャンパスライフ（参加者数：44 名）」を行っている。その他、各学部教授会において年 1 回の人権研修を行っている。

【FD 関連の研修】

学修支援・教育開発センターでは以下の研修・FD サロン・FD フォーラムを行った。

- ・2015 年 6 月 24 日 第 1 回教養教育センター共催 FD 研修会  
「学生は何を求めているのかー深草における龍谷大学ラーニングコモンズの取組から見えるものー」
- ・2015 年 7 月 30 日 第 1 回 FD サロン  
「日本私立大学連盟主催「平成 27 年度 FD 推進ワークショップ（専任教職員向け）  
高等教育におけるユニバーサルデザイン  
～今、私立大学の教育支援に求められる「合理的配慮」とは？～」 参加報告会」
- ・2015 年 10 月 7 日 龍谷大学 FD フォーラム「ラーニングコモンズを学びの空間として育てていくために」
- ・2015 年 11 月 13 日 第 2 回教養教育センター共催 FD 研修会

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>「龍大生の基礎カーデータ共有化により龍大生の実態を知る」</p> <p>・2015年12月10日 第2回FDサロン（新任教員フォローアップ研修を兼ねる）</p> <p>「卒業後にもつなげるライティング支援～瀬田学舎におけるライティングセンターの取り組み～」</p> <p>また、学修支援・教育開発センターが共催で各学部・研究科のFD報告会（研修会）を行った。</p> <p>・各学部・研究科FD報告会（研修会）を合計47回（前年度47回）実施</p> <p>このように、各学部・研究科において教員の資質向上に活発に取り組んでいる。なお、各学部・研究科において行われたFD報告会（研修会）については、「学部FD協議会」「大学院FD協議会」において互いに情報共有を図っている。</p> <p>上記方策の効果の検証方法として、事後アンケートの実施や参加した教職員に感想を伺う等で確認している。アンケート内では今後開催を希望する研修内容についての設問も設置しており、次回研修内容を検討する材料にもなっている。</p> <p>現状として、教学企画部による実施の他、各学部・研究科、人事課や宗教部などが中心となり研修を行っている。2015年度は部署横断型FD研修会を実施し、各部局が保有している学内データの情報共有の重要性について認識を共有することはできたが、構造化までには至っていない。</p> <p>全学的にどのような研修が実施されているのか、また、必要とされているのか把握に努めると共に、適切なテーマや体系的な研修を開催する必要がある。</p> |
| <p>〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員研修の体系化と充実</li> <li>・高等教育・FDに関する情報発信の工夫</li> <li>・人事課主催で新任教員向け研修（新任者就任時研修会）を行うとともにセンター主催で研究活動やFD活動に関する研修において、センター主催の研修会参加率が低いので、人事課との連携のもと研修会の参加率向上と内容の充実に努めていただきたい。【留意点】</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

### 3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

|                                                                                                 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。</p>                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員への研修が、本学に関する全学的な理解や教育理念等に関する理解促進に繋がっている。</li> </ul> |

### 4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

|                                                                          |
|--------------------------------------------------------------------------|
| <p>現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。</p>                                 |
| <p>全学的に行われている研修会実施の把握と、必要とされている研修テーマの把握に努めるとともに、適切なテーマや体系的な研修の開催を行う。</p> |

## 5. 根拠資料 《リスト形式》

| 項目 No. | 根拠資料の名称                                                   |
|--------|-----------------------------------------------------------|
| 304    | 2015 年度教育職員対象新任者就任時研修会プログラム                               |
| 304    | 4 月 1 日（水）のスケジュール/4 月 2 日（木）のスケジュール<br>（人事課主催新任教員研修プログラム） |
| 304    | 学修支援・教育開発センター、教学企画部関連事業一覧（2015 年度第 2 回全学教学会議資料）           |
| 304    | 宗教部研修一覧                                                   |
| 304    | 戦後 70 年“軍都”深草の関連遺構を歩く<br>（宗教部主催第 1 回研修会）                  |
| 304    | 教職員のための宗教部特別講座～東福寺で坐禅体験！～（ご案内）<br>（宗教部主催第 2 回研修会）         |
| 304    | 生きづらさを抱える若者とキャンパスライフ<br>（宗教部主催第 3 回研修会）                   |

## II. 評価結果

|                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 総評                                                                                                                                                                                                                                                        |
| <p>新任教員向けの研修は、参加率も高くほぼ定着してきていると評価できる。しかしアンケートの分析等から有効性（満足度）の検証が求められる。全学的教員向け研修は、ユニークな企画にもかかわらず参加者が少ないため、参加率向上に向けた方策が望まれる。2015 年度の部署横断型 FD 研修会は、これまでになかった形態の教学にかかる研修会として高く評価できる。今後、さまざまな学内の情報共有にもとづいた教学にかかる研修の場として、参加人数やアンケート結果の分析を蓄積する等、これらの継続を期待したい。</p> |
| <p>伸長すべき点（長所） 《箇条書き》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任教員向けの研修は、参加率も高くほぼ定着してきていると評価できる。</li> <li>・2015 年度実施の部署横断型 FD 研修会は、これまでになかった形態の研修会として高く評価できる。</li> </ul>                                                                               |
| <p>改善すべき点 《箇条書き》 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学的な教員向けの研修について、参加率向上に向けた方策が望まれる。【留意点】</li> </ul>                                                                                                                 |
| <p>※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要</p>                                                                                                                                                                                                                         |

2016 年度（対象年度：2015） 自己点検・評価シート 【大学全体の視点】

|     |         |
|-----|---------|
| 基準3 | 教員・教員組織 |
|-----|---------|

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

| 項目<br>No. | 評価項目                                  | 点検項目                                                                         | 自己評価 |    |
|-----------|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|------|----|
|           |                                       |                                                                              | 個別   | 総合 |
| 304       | 【大学全体の視点】<br>教員の資質向上を図るための方策を講じていますか。 | 【大学全体の視点】<br>①教員活動自己点検は、個人的かつ組織的に活用されていますか。【※どのように】<br>○教員活動自己点検の実施状況とその活用状況 | B    | A  |
|           |                                       | 【大学全体の視点】<br>②教員活動自己点検の制度実施の適切性について検証しましたか。【※どのように】                          | A    |    |

2. 現状説明 《記述形式》

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。<br/>点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| <p>304 ①全学的取り組みとして、2011 年度から全専任教員対象に実施している本制度により、教員各自が自身の活動に対し自己点検を行う機会となっている。2015 年度は期首において 100%、期末においては 99%（対象 584 名中、未入力者 6 名）の入力がなされている。加えて、後述する「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けた意見聴取」において、回答者の 92%が自らの資質向上・改善に繋げている、としており、個人的な活用は一定以上になされていると判断している。ただし、制度開始から 5 年が経過しているものの、組織的な活用の取り組みが弱い組織があると認識しているといった課題を有している。これについては、2015 年度から展開した第 5 次長期計画第 2 期中期計画 Act-p において、「教育職員の自律的な活動支援方策の実質化」を策定する中で、教員活動自己点検の組織的な活用を促すための方策を検討した。検討にあたっては、「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けた意見聴取」として、教員を対象に組織的な活用に向けて意見聴取を行い、また、事務組織を対象には潜在的なニーズについて情報収集を行った。さらに他大学の取組について調査し、複数の大学にヒアリング調査を実施した。その結果、2015 年度第 4 回全学大学評価会議において「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて（提案）」として、活性化（実質化）に向けた方向性を提案するにいった。</p> <p>②教員活動自己点検は、本学の内部質保証のあり方、実施要領、点検結果の活用に関するガイドラインに基づいて実施しており、毎年度総括を行っている。2015 年度（対象は 2014 年度）については、教育水準の維持向上を目的とした本学の内部質保証システムを支えるためのサイクルが定着してきている、と総括していることから、制度実施は適切であると判断している(2014 年度制度総括（2015 年度第 3 回全学大学評価会議）)。</p> <p>これらのことから、点検項目には一部課題を有しているが、教員の資質向上を図るための方策は十分に講じられていると評価している。</p> |
| <p>[改善すべき点の確認] 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <p>改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員活動自己点検の実質化が課題。制度の活性化等、改善に向けた検討を引き続き行う。</li> </ul> <p>評価結果【努力課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織的な活用の取り組みが弱い組織があると認識している。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

### 3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

|                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。                                                                                                                                                                                                            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育水準の維持向上を目的とした本学の内部質保証を支えるためのサイクルが定着してきている。</li> <li>・これまでに実施した教員活動自己点検（の蓄積）を活用する方策について学内でのニーズ把握を行えた。</li> <li>・先進的な取組をおこなっている他大学を訪問調査した。</li> <li>・「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて（提案）」として、活性化（実質化）に向けた方向性を提案するにいたった。</li> </ul> |

### 4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

|                                                                                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。                                                                 |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・制度開始から5年が経過しているが、組織的な活用の取り組みが積極的に行われている組織が少ない。</li> </ul> |

### 5. 根拠資料 《リスト形式》

| 項目 No. | 根拠資料の名称                                            |
|--------|----------------------------------------------------|
| 304    | 5長2中 Act-p、「教育職員の自律的な活動支援方策の実質化」について               |
| 304    | 2015年度 教員活動自己点検 入力状況（期首、期末）                        |
| 304    | 5長2中 Act-p 検討に係る、「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けた意見聴取」（教員対象） |
| 304    | 5長2中 Act-p 検討に係る、潜在ニーズ調査（事務組織対象：メール問い合わせ）          |
| 304    | 5長2中 Act-p 検討に係る、他大学訪問調査について（出張報告）                 |
| 304    | 教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて（提案）（2015年度第4回全学大学評価会議承認）     |
| 304    | 2014年度 教員活動自己点検の総括について（2015年度第3回全学大学評価会議承認）        |
| 304    | 龍谷大学内部質保証のあり方について                                  |
| 304    | 教員活動自己点検に関する実施要項                                   |
| 304    | 教員活動自己点検 点検結果の活用に関するガイドライン                         |

## Ⅱ. 評価結果

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                   |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| 総評                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                   |
| <p>2015 年度における教員活動自己点検では、期首入力は 100%、期末入力は 99%であった。このことから、個人的活用はほぼ定着していると判断する。</p> <p>一方、組織的活用については、「制度開始から 5 年が経過しているものの、組織的な活用の取り組みが弱い組織があると認識しているといった課題を有している」との認識に立ち、様々な検討を行った結果、「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて（提案）」において、活性化（実質化）に向けた方向性を提案された。その提案では、「目標」として、「組織的で体系立った教育等の確立・展開に資する組織的活用を促進する。大学全体の活動の活性化と質向上に資する組織的活用を促進する」を掲げるに留まっている。</p> <p>今後は、組織的活用に向けた具体的な方法の早期策定に期待する。</p> |                                   |
| 伸長すべき点（長所）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 《箇条書き》                            |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 2015 年度における教員活動自己点検では、期首入力 100%、期末入力 99%であったことから、個人的活用はほぼ定着していると判断する。</li><li>・ 全学大学評価会議に対し、「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて（提案）」として、活性化（実質化）に向けた方向性を提案するにいたったことは評価できる。</li></ul>                                                                                                                                                                 |                                   |
| 改善すべき点                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載 |
| <ul style="list-style-type: none"><li>・ 全学大学評価会議にて承認された「教員活動自己点検の活性化（実質化）に向けて（提案）」に定めた「目標」が達成されるよう、具体的な方法の早期策定に期待する。【努力課題】</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                            |                                   |
| ※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |                                   |